

日本学術会議 臨床医学委員会 臨床ゲノム医学分科会
第24期 第3回 会議 議事録

日時：平成31年4月5日（金）15：00－17：00

場所：日本学術会議6階 6-C会議室

出席：戸田達史，福嶋義光，尾崎紀夫，門脇孝，玉利真由美，辻省次，徳永勝士，芳賀信彦，村上善則，櫻井晃洋

オブザーバー：菅野純夫（ゲノム科学分科会委員長）

欠席：金井弥栄，古庄知己，杉浦真弓，田中敏博

議事

1. 前回分科会議事要旨の承認

議事要旨を公開するのにあわせて、概略版を作成することとなり、櫻井が担当となった。

2. ゲノム科学分科会との共同提案について

以下のようにゲノム科学分科会との共同提言について報告があった。

- ・ 提言の最終版を提出した。ゲノム科学分科会でも原案を確認した。2分科会からの提言として近日中に二部の査読に回したい。白石先生，磯部先生，二部の部長の石川先生にもお話ししてある。ポイントは1)日本人のゲノムエビデンスを得るためにもっと大規模な解析を予算措置のもとに進める，2)ゲノム医学研究がすべての疾患に関する幅広い方法論であるという位置づけで健康医療戦略やAMEDで位置付けてほしい，3)ゲノム医学研究推進・実装のための環境整備として個人情報保護法の問題，リテラシーの問題への対策が必要，の3点。査読期間がわからないが，できれば今月第3，4週あたりに発表したい。
- ・ 一昨日直接内閣官房に行き，審議官にも会った。たくさんの疾患をすべて柱にはできないので方法論を横串にし，それを中心として次期健康医療戦略をたてる。何をたてるかについては今のところ創薬（基盤），医療機器，再生・遺伝子治療，データ情報，技術基盤。ゲノムはデータ情報基盤の中に位置付けるという説明。ゲノムは医薬などあちこちに散らばっているが，「ゲノム」が柱としては消えるという状況は今も続いている。ゲノムという語を柱の外に見えるように位置付けるべきと提案した。

3. 合同シンポジウムの開催について

前回の会議でも検討された、ゲノム科学をさらに推進すべきことを提案するシンポジウムの開催について議論がなされた。事務局から分科会としてシンポジウムを開催するには幹事会の検討を経る必要があるため早くても第三四半期になること、分科会は他団体が主催するイベントの共催はできないことが説明された。一方で6月には大型研究のマスタープランの発表やゲノム推進協議会があるため、それまでに開催しておきたいことから、東京大学での定期イベントの中でゲノム医科学に関するシンポジウムを、5月後半をめどに開催し、村上委員を中心に準備を進めていくこととなった。

その他：

- ・ 徳永委員から三省指針改定の合同会議の進捗について報告があった。
- ・ 芳賀委員からリハビリ領域における課題について紹介があった。
- ・ 玉利委員から、免疫アレルギー疾患10か年戦略について紹介があった。
- ・ 議員立法でゲノム医療推進法案が次回通常国会で提出され、その中に遺伝差別禁止の理念が盛り込まれる予定という件について、フリーで情報提供が行われた。上述のシンポジウムとタイミングが合えばよいテーマかもしれない。

以上で定刻となり閉会。

記録：櫻井